

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置した。さらに、令和2年度入学生からは、工科高校のさらなる魅力づくりを踏まえ、学習内容の充実を図るとともに、1クラス35人編成による一層きめ細かな指導を行っている。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！一生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 基礎的・基本的な学力の定着とともに、授業の質の向上のため学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルを行い授業改善を図る。

ア 生徒の実態を把握し、ICTを効果的に取り入れて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 英語の4技能（「読む・聞く・話す・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

ウ 教員の授業力向上のため、教員・保護者の授業見学や研究授業を行い、授業改善の取組みを推進する。

エ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫等」を、令和5年度には60%以上にする（H30:48.0%、R1:47.2%、R2:55.9%）。[H28～R2平均51.2%]

※ 外部学力調査における生徒（1年生）の3教科（国数英）平均合計210点以上を確認して指導にあたる（H30:212.3点、R1:209.5点、R2:211.5点）。[H28～R2平均212.1点]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「ICT機器を活用した授業」を、令和5年度には68%以上にする（H30:47.5%、R1:50.0%、R2:63.9%）。[H28～R2平均52.9%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「家庭学習者の増加」を、令和5年度には25%以上にする（H30:21.5%、R1:23.0%、R2:19.7%）。[H28～R2平均21.7%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「図書館機能の充実」を、令和5年度には68%以上にする（H30:55.0%、R1:63.5%、R2:65.5%）。[H28～R2平均60.6%]

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートの活用も含めてキャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

※ インターンシップ参加者を、令和5年度には40名以上にする（H30:32名、R1:35名、R2:コロナ禍で実施せず）。[H28～R1平均43.5名]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「実習授業満足度」を、令和5年度には77%以上にする（H30:72.0%、R1:71.0%、R2:77.4%）。[H28～R2平均74.8%]

※ 資格取得を推奨し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別[T]・ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B: H30から制度化]の取得者を、令和5年度には5年間の平均以上にする（H30:T1・G4・S7・B2、R1:G3・S5・B4、R2:T2・G2・S4・B6）。[H28～R2平均T1・G3・S6、B4]

2 夢と志をもつ生徒の育成

(1) 豊かでたくましい人間性の育成。

ア あらゆる教育活動における人権教育と、生徒の発達段階に応じた学年別人権教育の充実を図る。

イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少に努める。

エ 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権教育等の充実度」を、令和5年度には53%以上にする（H30:47.0%、R1:55.5%、R2:52.5%）。[H28～R2平均51.7%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「いじめ相談対応」を、令和5年度には60%以上にする（H30:調査なし、R1:50.0%、R2:48.7%）。[R1、R2平均49.2%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「制服や頭髪等のルール・マナー厳守」を、令和5年度には80%以上にする（H30:64.5%、R1:66.0%、R2:71.9%）。[H28～R2平均69.2%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業スマホ等のマナー」を、令和5年度には80%以上にする（H30:57.5%、R1:56.5%、R2:70.5%）。[H28～R2平均57.3%]

※ 遅刻件数を、令和5年度には2,000件以下にする（H30:3,761件、R1:2,750件、R2:2,139件）。[H28～R2平均3,274件]

※ 問題行動指導を、令和5年度には件数を一桁にする（H30:7件・16名、R1:21件・32名、R2:9件・9名）。[H28～R2平均12件・24名]

※ 転退学率を、令和5年度には1.8%以下にする（H30:1.72% [転学0.75%、退学0.97%]、R1:2.42% [転学1.21%、退学1.21%]、R2:1.46% [転学0.73%、退学0.73%]）。[H28～R2平均1.82% [転学0.94%、退学0.92%]]

※ 部活動加入率を、令和5年度には68%以上にする（H30:64.7%、R1:62.4%、R2:68.7%）。[H28～R2平均66.3%]

(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。

ウ 卒業3年後の離職率調査を実施し、就職指導に生かす。

エ 大学進学者への学習状況調査を実施し、進学指導に生かす。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する行事の充実」を、令和5年度には75%以上にする（H30:67.5%、R1:65.0%、R2:72.0%）。[H28～R2平均68.7%]

※ 就職一次合格率を、毎年工科平均以上にする（H30:84.9% [工科平均86.1%]、R1:86.8% [工科平均86.3%]、R2:74.5% [工科平均82.1%]）。[H28～R2平均82.4% [工科平均84.4%]]

※ 就職希望者内定率を、令和5年度も100%を維持する（H30:100% [203名]、R1:100% [207名]、R2:100% [190名]）。[H28～R2平均100%]

※ 大学進学希望者実現度を、令和5年度には100%にする（H30:93.6% [44/47名]、R1:92.7% [38/41名]、R2:95.7% [45/47名]）。[H28～R2平均95.2%]

※ 3年後の離職率を、令和5年度[令和元年度入社]には25.0%（5年間の平均）以下にする（H30[H27入社]23.8%、R1[H28入社]29.4%、R2[H29入社]25.8%）。[H28～R2平均25.0%]

3 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の幼・中学校等との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

※ 幼・中学校との連携を、令和5年度には8回以上にする（H30:7回、R1:7回、R2:2回）。[H28～R2平均5.6回]

※ 志願倍率を、毎年総合募集・工学系ともに1倍以上確保する（H30 [総合] 0.96倍 [工学] 1.28倍、R1 [総合] 1.02倍 [工学] 1.46倍、R2 [総合] 0.91倍 [工学] 1.71倍）。[H28～R2平均 [総合] 0.96倍 [工学] 1.56倍]

(2) 工業高校生対象の大会等へ参加し、全国大会出場と上位結果をめざす。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。

イ マイコンカーレース・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。

※ 高校生ものづくり大会旋盤部門を、毎年近畿大会優勝・全国大会出場をめざす（R1近畿大会優勝・全国大会出場（9年ぶり）、R2コロナ禍で中止）。[H28～R1近畿大会連続出場]

※ 全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす（H30:2作品「優秀賞」「理事長特別賞」受賞、R1:2作品「佳作」、R2:1作品「佳作」）

(3) 工科高校のさらなる魅力づくりを推進するため、学校組織の改善を図る。

ア 五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。

イ 令和4年度の再編整備に向けて、校内PTを組織して先行する工科高校6校を参考に、計画の策定・運用方法の検討を進める。

4 校務の効率化と職場環境づくりの推進

(1) 校務の効率化

府立淀川工科高等学校

ア ICTを活用して、校務の効率化を図る。
 ※ 校務の効率化を、毎年1件以上図り、業務軽減につなげる（H30:効率化なし、R1:2件[電話交換機の変更に伴う校内電話番号案内・SSC 会議室予約システムの設定・運用]、R2:2件[緊急連絡メール・SSC 教職員共有ファイルの設定・運用]）。

(2) 職場環境づくりの推進
 ア 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて労働安全衛生委員会で議論を行い、改善策は図っていく。
 イ 学校保健委員会、労働安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
 ※ ストレスチェック結果における「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」を、毎年基準値（8.7・100・100）より低く抑える（H30:8.2・94・94、R1:8.5・95・97、R2:8.1・94・97）。[H28~R2 平均 8.32・95.0・97.2]
 ※ 学校教育自己診断（教員）の「職場での相談・人間関係」の肯定率を、令和5年度には60%以上にする（H29:57%、H30:52%、R1:53%、R2:56.6%）。[H28~R2 平均 55.3%]
 ※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月80時間以上を令和5年度には一桁にする（H30:18名、R1:19名、R2:10名）。[H28~R2 平均 18名]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	(1) 学力の定着と、授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進	(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。特に1年生は、外部学力調査による学力検査と結果の経年変化を確認し、その後の教科指導に生かす。 ・教育実践にICTを効果的に取り入れ、学びの深化を図る。	(1) ア・学校教育自己診断「授業の工夫等」57%以上 [55.9%] <参考> 生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査（国数英）の平均計210点以上[合計211.5点:国73.4点、数68.7点、英69.4点] ・学校教育自己診断「ICT機器を活用した授業」65%以上 [63.9%]	イ・前年度と今年度の英語学力調査の4技能向上比較 [1年は独自スピーキングテスト実施。6つ観点を4段階で評価。①声量3.0、②発音正確3.0、③言語的正確2.3、④語彙量2.4、⑤談話能力2.8、⑥意欲3.0、平均2.75。2、3年はGTECを実施。4技能トータルは共に「A1.2」、スピーキングは共に「A1.3」] ウ・授業見学1人2回以上 [6月未実施、10月授業見学週間で実施、見学未実施21人/76人、見学平均4.8回]
	イ 英語の4技能指導による技術者の育成	イ・全学年で英語学力調査を実施し、昨年度との4技能結果を比較し、成果と課題を分析し、英語教育の指導に生かす。	イ・前年度と今年度の英語学力調査の4技能向上比較 [1年は独自スピーキングテスト実施。6つ観点を4段階で評価。①声量3.0、②発音正確3.0、③言語的正確2.3、④語彙量2.4、⑤談話能力2.8、⑥意欲3.0、平均2.75。2、3年はGTECを実施。4技能トータルは共に「A1.2」、スピーキングは共に「A1.3」] ウ・授業見学1人2回以上 [6月未実施、10月授業見学週間で実施、見学未実施21人/76人、見学平均4.8回]	
	ウ 教員・保護者の授業見学や研究授業等による授業	ウ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員・保護者の授業見学、授業改善の取組みを進める。	ウ・授業見学1人2回以上 [6月未実施、10月授業見学週間で実施、見学未実施21人/76人、見学平均4.8回]	
	エ 家庭学習と学校図書館機能の充実	エ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実を図る。	エ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」22%以上 [19.7%] ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」66%以上 [65.5%]	
	(2) ものづくり教育による生徒育成 ア キャリア教育・職業教育の充実	(2) ア・企業や大学等の連携を行い、授業・HR等においてキャリア・パスポートを活用したキャリア教育・職業教育の充実を図る。	(2) ア・インターンシップ参加者数:35名以上 [未実施] ・学校教育自己診断「実習授業満足度」5年平均75%以上を維持 [77.4%]	
	イ 資格取得への支援	イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。	イ・ジュニアマイスター:過去5年平均以上 [T2,G2,S4,B6]	

2 夢と志をもつ生徒の育成	<p>(1)豊かでたくましい人間性の育成 ア 人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少</p> <p>エ 部活動の振興</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」教育を推進し、共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、いじめ対応も含めた教員による相談対応の充実を図る。 ウ・学校生活におけるルールやマナーの徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻件数の減少を図る。 集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 <p>エ・部活動加入を促進し、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策の強化を図る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」53%以上 [52.5%] イ・学校教育自己診断「いじめ相談対応」53%以上 [48.7%] ウ・学校教育自己診断「制服や頭髪等のルール・マナー厳守」75%以上 [71.9%] ・学校教育自己診断「授業スマホ等のマナー」75%以上 [70.5%] ・遅刻件数：2,200件以下 [2,139件] ・問題行動指導：件数一桁[一桁] ・転退学率：2.0%以下 [1.46%] エ・部活動加入率：5年平均66%以上を維持 [68.7%]</p>
	<p>(2)生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現 ウ 離職率調査の実施 エ 大学進学者に対する学習状況調査の実施</p>	<p>(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する指導の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな就職指導を行う。 ・大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進学指導を行う。 ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導に生かす。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」5年平均69%以上を維持 [72.0%] ・就職一次合格率：工科平均以上 [74.5%、工科平均82.1%] イ・就職希望者内定率：100% [就職100%] ・大学進学希望者実現度：100% [進学95.7%] ウ・離職率：26.0%以下 [25.8%、回収率100%] エ・大学進学者への調査、課題の分析と対応 [回収率39.1% (36/92)] 課 題⇒数Ⅲ・物理・英語 普通科に比べて、 数学・物理は圧倒的に理解力に差がある 優位性⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、CAD製図、情報関連知識 <参考：課題への対応> 工業科は、専門科目を25単位以上修得が必修であり、課題については選択科目や補習等で補っている</p>

<p>3 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動と志願者確保 ア 広報活動の精査・充実 イ 地域との連携と学校活性化 ウ 志願者倍率の確保</p> <p>(2) 工業高校生対象の大会等への参加と結果 ア ものづくり大会等への参加と結果 イ マイコン利用した大会への参加と結果</p> <p>(3) さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題の対応と迅速な実行 イ 学校改編に向けた取組み</p>	<p>(1) ア・中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。 イ・地域の幼・中学校との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。 ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。 イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3) ア・五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。 イ・工科高校のさらなる魅力づくり・学習内容の充実を推進するため、PTを組織して今後の検討に入る。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問 [コロナ禍で実施せず]、出前授業 [1校]、学校説明会 [13件] の精査・充実 イ・幼・中学校との連携：7回以上 [幼・中と各1回実施] ウ・志願者倍率：総合・工学とも1倍以上 [[全体] 1.04倍 [総合] 0.91倍、[工学] 1.71倍]</p> <p>(2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 [課題研究1作品が高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で佳作を受賞] イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 [パソコン甲子園モバイル部門は本選進出]</p> <p>(3) ア・五役会での課題解決への対応回数と内容を示す イ・学校改革への取組み：再編整備に関連する会議の実施 府教育庁主催PT・校内PTの各回数と実績を示す [5回]</p>
<p>4 校務の効率化と職場環境づくりの推進</p>	<p>(1) 校務の効率化 ア ICTを活用した校務の効率化 (2) 職場環境づくりの推進 ア 「より働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p>	<p>(1) ア・ICTを活用した校務の効率化を図る。 (2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。 イ・部活動や働き改革を踏まえ、時間外勤務時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・効率化：2件以上 [2件：緊急連絡メール、教職員共有ファイル] (2) ア・ストレスチェックの「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」：基準値 [8.7・100・100] 以下 [8.1・94・97] ・学校教育自己診断「職場での相談・人間関係」平均58%以上 [56.6%] イ・時間外勤務月80時間以上の縮減：12名以下 [10名]</p>